

改訂学習指導要領に基づく高等学校公民科 「倫理」の在り方について ——内容構成と学習指導計画——

戸田 浩暢

High School Civics (Ethics) Based on Revised National Curriculum Standards
——Content and Curriculum Planning——

Hironobu TODA

Abstract

National curriculum standards of high school civics “Ethics” were revised in March 2009. This paper describes the following three points: 1) transition of the purpose and the content in Civics “Ethics” in high school curriculum guidelines; 2) characteristics of the content in Civics “Ethics” in 2009 high school curriculum guidelines; and 3) required curriculum in Ethics in the future.

1. はじめに

本稿では、次の3点について論究する。1点目は、高等学校学習指導要領における「倫理」の目標・内容構成の変遷について、2点目は、2009（平成21）年版高等学校学習指導要領「倫理」の内容構成の特徴について、3点目は、今後、求められる「倫理」の学習指導の在り方についてである。

教科・科目は、時代・社会の変化に対応した高等学校における教育の目標の変更に伴い、編成される。1978（昭和53）年の高等学校「社会科」の学習指導要領改訂により、従前の倫理的な科目「倫理・社会」から、科目「倫理」が新たに設けられた。また、平成元年の学習指導要領改訂における教科の再編成によって、「社会科」から「公民科」の一科目として「倫理」が設けられた。最初に、学習指導要領における科目「倫理」の目標・内容構成の変遷について概観し、次に、2009（平成21）年版高等学校学習指導要領「倫理」の内容構成の特徴について述べる。そして、今次の改定における学習指導計画の在り方の改善の基礎となる、国立教育政

策研究所教育課程研究センターから2007（平成19）年に出された『平成17年度教育課程実施状況調査（高等学校）結果概要・集計表 公民 倫理 政治・経済』（以下、「結果概要」と記す）で示された事項を取り上げ、今後、求められる「倫理」の学習指導の在り方について考察する。

2. 学習指導要領における「倫理」の目標・内容構成の変遷

(1) 1978（昭和53）年版学習指導要領「倫理」の目標・内容構成

1978（昭和53）年版学習指導要領「倫理」の目標・内容構成は次のとおりである。

1978（昭和53）年版学習指導要領「倫理」	
目標	人間尊重の精神に基づいて、人間の存在や価値についての理解と思索を深めさせるとともに、自主的な人格の形成に努める実践的な態度を育てる。
内容	(1) 人間の自覚
	ア 自己探究と思想の源流 イ 現代に生きる思想
	(2) 日本の思想
	ア 思想と風土 イ 思想と伝統
(3) 現代社会と倫理	ア 現代の思想的課題 イ 思索と倫理的自覚

ここでは、「倫理」の目標を達成するため、3つの大項目と、それぞれについて2つの中項目が設定されている。

「(1) 人間の自覚」では、「ア 自己探究と思想の源流」において、「ギリシアの思想、キリスト教、仏教、儒学などの基本的な考え方と人間の自覚についての意義」を学習し、「イ 現代に生きる思想」において、「人間の尊重、合理的な精神、民主社会の倫理などについての思想の歴史的形成とそれらの思想が現代に生きる意義」について学習する。「(2) 日本の思想」では、「ア 思想と風土」において、「日本人にみられる人間観や自然観と風土」を学習し、「イ 思想と伝統」において、「外来思想の受容と独自の思想の形成にみられる日本の伝統」について学習する。「(3) 現代社会と倫理」では、「ア 現代の思想的課題」において、「現代の主な思想にみられる共通で基本的な課題」を学習し、「イ 思索と倫理的自覚」において、「現代社会に生きる人間として自らを形成する課題」について学習する。

1978（昭和53）年版学習指導要領で新たに設定された必修科目「現代社会」での学習を踏まえ、倫理・哲学などに関する基本的な問題について系統的に学び、生徒自らが人生観・世界観を形成できるようにすることが目指された。このため、世界と日本の思想史を古代から時系列

に沿って学ぶように内容構成されていた。

(2) 1989（平成元）年版学習指導要領「倫理」の目標・内容構成

1989（平成元）年版学習指導要領「倫理」の目標・内容構成は次のとおりである。

1989（平成元）年版学習指導要領「倫理」	
目 標	人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
内 容	(1) 青年期と人間としての在り方生き方 ア 青年期の課題と自己形成 イ 人間としての自覚 (2) 現代社会と倫理 ア 現代社会の特質と人間 イ 現代社会を生きる倫理 (3) 国際化と日本人としての自覚 ア 日本の風土と日本人の考え方 イ 外来思想の受容と日本の伝統 ウ 世界の中の日本人

ここでは、目標に大きな変化が見られる。理解と思索を深めさせる「人間の存在や価値」が「青年期における自己形成と人間としての在り方生き方」に変化し、「人格の形成に努める実践的意欲を高め」が加わり、「自主的な人格の形成に努める実践的な態度」が「良識ある公民として必要な能力と態度」に改まった。内容構成は、3つの大項目と、(1)と(2)は2つ、(3)では3つの中項目が設定されており、「『(1) 青年期と人間としての在り方生き方』においては、青年期における自己形成の課題を自覚させ、人間の存在や価値について思索を深めた先哲の基本的な考え方を手掛かりに、人間としての在り方生き方を考えさせる。次いで、『(2) 現代社会と倫理』では、現代社会における人間としての在り方生き方を問い、さらに『(3) 国際化と日本人としての自覚』においては、生徒一人一人の人間形成に深く関わっている日本人の心情やもの見方考え方について理解を深めながら、国際社会における主体性のある日本人としての在り方生き方についての思索を深めさせる¹⁾」としている。

これは、従前では必修科目であった「現代社会」が、同じ公民科の中での選択科目になり、「倫理」の内容が、「現代社会」の学習内容を基礎とせず、中学校社会を基礎とするようになったためである。また、「人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより、高等学校の道德教育の充実を図る」ことになり、これに対応して目標や内容構成が再編された。

(3) 1999（平成11）年版学習指導要領「倫理」の目標・内容構成

1999（平成11）年版学習指導要領「倫理」の目標・内容構成は次のとおりである。

1999（平成11）年版学習指導要領「倫理」	
目 標	人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
内 容	(1) 青年期の課題と人間としての在り方生き方 ア 青年期の課題と自己形成 イ 人間としての自覚 ウ 国際社会に生きる日本人としての自覚
	(2) 現代と倫理 ア 現代の特質と倫理的課題 イ 現代に生きる人間の倫理 ウ 現代の諸課題と倫理

ここでは、目標に「生きる主体としての自己の確立を促し」という文言が加わった。これは、1999（平成11）年版学習指導要領のキーワードである「生きる力」に対応している。内容構成は、従前の3つの大項目が2つになり、それぞれについて3つの中項目が設定されている。目標に対応し、内容構成の工夫では、「特に『生きる力』の核となる豊かな人間性を育成するという『心の教育』を重視する観点から、その重要な役割を担う科目としての性格付けを一層明確にした。そのため、総則第1款の2で示されている、人間としての在り方生き方に関する教育、すなわち、高等学校における道德教育の役割を一層よく果たすことができるよう、生徒の当面する生き方の課題を学習の中心としながら、その課題を先哲の考え方などを手掛かりにして学べるよう²⁾にしている。

また、内容構成に関しては、「目標に『生きる主体としての自己の確立を促し』と規定し、『倫理』の学習の課題が生きる主体としての自己の確立にあることを一層明確にした。そのため、学習内容を生徒が単に知識として受け止めるのではなく、常に自己の課題として受け止める学習となるよう、指導の工夫に幅をもたせることとした。³⁾とあり、大項目「(2) 現代と倫理」の「ウ 現代の諸課題と倫理」に特徴がある。

大項目「(2) 現代と倫理」は、「アにおいて現代の倫理的課題を大局的にとらえさせ、イにおいて現代に生きる人間として何が基本的課題であるかを考えさせ、ウにおいてこれらの課題を自己の生き方との関連においてとらえ、主体的に課題を追究させる⁴⁾としている。この中で、「ウ 現代の諸課題と倫理」は、「生命、環境、家族・地域社会、情報社会、世界の様々な文化の理解、人類の福祉のそれぞれにおける倫理的課題を、自己の課題とつなげて追究させ」

申)」（2008年）の方針に基づいて議論がなされ、改訂されている。また、1999（平成11）年版学習指導要領でキーワードとされた「生きる力」をはぐくむという理念は継承されている。

上記の「答申」では、「倫理」については、「人間としての在り方生き方への関心を高めることを重視し、その手掛かりとしての先哲の考え方を取り上げるとともに、自分自身の判断基準を形成するために必要な倫理的な諸価値について理解と思索を深めさせる。また、生命、環境、情報、文化などを取り上げて、課題追究的な学習や討論を行うことを一層重視し、社会の一員としての自己の生き方を探求できるようにする。」⁵⁾ ことを「改善の具体的事項」として求めている。

このような方針を基盤として、目標に新たな文言が2つ加わったと考えられる。

追加された文言の1点目は、「生命に対する畏敬の念」である。生命に対する畏敬の念については、「人間の存在そのものあるいは生命そのものの意味を深く問うときに求められる基本的精神であり、生命のかけがえのなさに気づき、生命あるものを慈しみ、畏れ、敬い、尊ぶことを意味する。このことにより人間は、自他の生命の尊さや生きることのすばらしさの自覚を深めることができる。また、ここでいう生命は、人間のみでなく、すべての生命を含んでいる。生命に対する畏敬の念に根ざした人間尊重の精神を培うことによって、人間の生命が、あらゆる生命との関係や調和の中で存在し生かされていることを自覚できる。そして更に、生命あるものすべてに対する感謝の心や思いやりの心をはぐくみ、より深く自己を見つめながら、人間としての在り方や生き方についての自覚を深めていくことができる。」⁶⁾ としている。この文言が加わった背景には、小学校・中学校で行われている道德教育を高等学校においても更に充実することが目指されているものと考えられる。

2点目は、「他者と共に生きる」である。従前の目標では、「個」としての「自己」の確立にのみ重点がおかれたような表記になっており、「生きる主体としての自己」は、他者と切り離された存在ではなく、「他者と共に生きる」存在としての自己であることを強調する表記に改められたと考えられる。つまり、「他者と共に生きる主体としての自己の確立」を促すことによって、他者や社会と主体的に適切な関係をもつことができるようになると考えられる。

(2) 2009（平成21）年版学習指導要領「倫理」の内容構成の概略

内容の構成は、前回の大項目において示されていた「(1) 青年期の課題と人間としての在り方生き方」の「ア 青年期の課題と自己形成」と「(2) 現代と倫理」の「ア 現代の特質と倫理的課題」を統合し、大項目(1)として示されたことにより、3つの大項目による構成に改められている。

大項目「(1) 現代に生きる自己の課題」は、「豊かな自己形成」をねらいとして、次のような

2段階の構造になっている。前段では、振り返ることとして「自らの体験や悩み」をあげて、「青年期の意義と課題」を理解させるようになっており、後段で、「他者と共に生きる自己の生き方について」考えさせるとともに、「自己の生き方が現代の倫理的諸課題と結び付いていること」をとらえさせるようになっている。なお、この大項目は、この科目の導入として位置付けられており、以後の学習への意欲を喚起し、倫理を学ぶことの意義を把握することが求められている。

大項目「(2) 人間としての在り方生き方」では、「人間の存在や価値について思索を深めさせる」ために、「自己の生きる課題とのかかわり」を重視し、「先哲の基本的な考え方」を手掛かりとするようになっている。この大項目の内容は従前と比べほぼ変化が見られない。

大項目「(3) 現代と倫理」では、並列の構造が見られる。最初に、「現代に生きる人間の倫理的課題」について理解を深めさせて、「自己の生き方の確立」を促すこと、次に、「よりよい国家・社会を形成し、国際社会に主体的に貢献しようとする人間としての在り方生き方」について自覚を深めさせることを目指すようになっている。ここでは、特に、「イ 現代の諸課題と倫理」において、「生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際社会と人類の福祉などにおける倫理的課題」という取り扱う内容があげてあり、従前と比較して、内容と選択の仕方に若干の変化が見られる。

(3) 大項目「(1) 現代に生きる自己の課題」

ここでは、従前の表記に、「自己の生き方が現代の倫理的課題と結び付いていることをとらえさせる」が加えられている。これは、自分にとって身近な問題が、実は現代の倫理的課題にかかわっていることに気付かせることを意味している。例えば、日頃の自己の生活における問題を考える場合、自己の生き方が、家族や地域社会の在り方の変化や現代の倫理的課題と結び付いていることに気付かせることが求められる。その際、諸課題を多面的にとらえさせるように配慮し、一面的理解に偏らないようにする必要がある。「内容の取扱い」にあるように、「この科目の導入として位置づけ」とあり、ここで諸課題の探究に深入りしたり、細かな事項を取り扱うことにならないようにすることが重要である。そして、大項目「(3) 現代と倫理」の「イ 現代の諸課題と倫理」において自己の問題として探究させるための前提として問題意識をもたせることが大切である。単に知識として学びとらせるのではなく、生徒自身の課題とかがかわらせて興味・関心を喚起し、現代に生きる人間としての在り方生き方にかかわる諸課題を主体的に探究させるよう指導内容の構成と指導方法を工夫する必要がある。

また、「内容の取扱い」に「生徒自身の課題を他者、集団や社会、生命や自然などのかかわりを視点として考えさせ」と表記が加えられているが、これは、大項目(1)の学習において、

これらの視点から学習させることの大切さを述べている。倫理的課題について、自分自身への問いとしてだけでなく、他者とのかかわり、集団や社会とのかかわり、生命や自然とのかかわりなど様々な視点から考えさせることを意味している。

(4) 大項目「(2) 人間としての在り方生き方」

ここでは、中項目「ア 人間としての自覚」において、「人間としての在り方生き方について考えを深めさせる」ことをねらいとして、次のような二段階の構造になっている。前段では、「人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義」などについて理解させ、後段では、「人間の存在や価値にかかわる基本的な課題について思索させる」ことが求められている。

内容としては、従前の「基本的な課題を探究させることを通して」が、「基本的な課題について思索させることを通して」と改められたこと以外はほとんど変化が見られない。「内容の取扱い」では、従前から、授業では取り上げられてきた内容ではあるが、昨今の世界的な状況を背景に、新たに「イスラム教」について「倫理的な観点を明確にして取り上げる」ことが明記された。ここでは、ムハンマドの言行やイスラム教の啓典などを取り上げて、どのように生きることが望ましいのかを理解させたり、また、社会生活のすべてにかかわるイスラム教の特色について理解させることが考えられる。例えば、お互いの連帯や社会的弱者の扶助について取り上げ、共同体の中で生きる人間としてのよりよい生き方について、自己の生き方と関連させて考えさせることができる。

中項目「イ 国際社会に生きる日本人としての自覚」においては2つのことが求められている。1点目は、「我が国の風土や伝統、外来思想の受容」に触れながら、「日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質」について、「自己とのかかわり」において理解させること。2点目は、「国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方」について自覚を深めさせることである。この中項目は従前と変わっておらず、「内容の取扱い」で、「古来の日本人の考え方や代表的な日本の先哲の思想を手掛かりにして、自己の課題として学習させること。」が求められている。

(5) 大項目「(3) 現代と倫理」

ここでは、中項目「ア 現代に生きる人間の倫理」において、次のような2段階の構造が見られる。前段では、「人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間とのかかわり、民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福など」という項目があげてあり、これらのことについて、「倫理的な見方や考え方」を身に付けさせることが求められている。次に、「他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題」として考えを深めさせることが求め

られている。

中項目「イ 現代の諸課題と倫理」においては、「生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際社会と人類の福祉など」における倫理的課題が並列的にあげてあり、「自己の課題とつなげて探究する活動」を行い、次の2つのことが求められている。1点目は、「論理的思考力や表現力を身に付けさせる」ことであり、2点目は「現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる」ことである。

特に、中項目「イ 現代の諸課題と倫理」の内容と「内容の取扱い」に今次改訂の特徴が見られる。

内容に関しては、「論理的思考力や表現力を身に付けさせる」という表現が新たに加わった。これは、現代の複雑な倫理的な課題を探究するためには、自ら主体的に考察し、根拠を持って意見をまとめ、異なる考えを持つ他者と議論しながら、合意の形成に向けて努力する能力が必要であることから、論理的思考力や表現力身に付けることが求められていると考えられる。自らの考えの理由や根拠を明らかにし、安易で浅薄な結論になっていないか、結論は様々な考えを公平に考慮しているかなど、理性的で倫理的な立場に立って、自らの考えを批判的に吟味する力の涵養が求められている。

「内容の取扱い」では、従前の「生命と環境、家族・地域社会と情報社会、世界の様々な文化の理解と人類の福祉」の三つの群から一つずつの課題を選択して学ばせることを改変し、「イに示された倫理的課題が相互に関連していることを踏まえて、学習が効果的に展開するよう留意するとともに、論述したり討論したりするなどの活動を通して、自己の確立を促すよう留意すること。」として、学校や生徒の実態に対応して課題を選択するようになり、学習する課題は指定されていない。これは、現代の倫理的課題はそれぞれ単独で存在しているのではなく、相互に複雑に関連し合っており、どの課題を扱った場合も、他の項目の内容の課題を考えるのに役立つ学習とすることができ、現代に共通する倫理的課題について考察させることができるためである。そして、クラスでグループに分かれ、それぞれの関心に応じて別の課題を取り上げて探究し、レポート作成・発表・討論を行うことで、学習内容を共有化することも考えられる。

4. 「倫理」の学習指導計画

(1) 「結果概要」とペーパーテスト調査について

「結果概要」では、1999（平成11）年に告示され、2003（平成15）年入学者より実施された学習指導要領の目標・内容に照らした生徒の学習状況の把握のために、2005（平成17）年に高校3年生に対して実施された調査（ペーパーテスト調査・質問紙調査）の結果が記されている。

調査結果における主な特色では、「倫理」に関して、「自己の体験や自己の生きる課題と関連付けて考察させることに課題」⁷⁾が見られるとし、指導の改善の主な具体例として、「人間としての在り方へ関心を高め、生き方を探究させる指導の充実」⁸⁾が求められている。

調査結果のポイントとしては、「ペーパーテスト調査」において、「前回の調査結果（平成15年度）では、自分の生き方と関連付けて考えさせるような問題については、通過率が設定通過率を下回る傾向にあり、倫理の学習において、身近な生活と関連付けて、学習内容を生きる知識として身に付けさせることが課題であったが、今回のペーパーテスト調査においても、同様の結果がみられた。」⁹⁾と指摘している。また、「質問紙調査」では、『『人格形成に役立つよう、倫理を勉強したい』及び『社会の一員としてよりよい社会を考えることができるよう、倫理を勉強したい』に対しては、否定的回答の割合が肯定的回答の割合よりもそれぞれ10ポイント以上高かった。』¹⁰⁾とされ、また、「課題解決的な学習に対する生徒の意識については、『好きだ』、『どちらかといえば好きだ』という肯定的な回答割合は少なく、また実際にそのような学習を『まったく又はほとんど行っていない』という回答が約50%を占めた。』¹¹⁾としている。

ここで、ペーパーテスト調査の具体的な問題¹²⁾を見てみる。

調査票A③ (2)

倫理の授業のなかで、「人間の本性は善か、悪か」というテーマのもとにクラスの4人の代表が討論を行いました。この内容について、後の(1)・(2)の各問いに答えなさい。答えは、解答用紙の解答欄に書きなさい。

中村さん：僕は、人間の本性が善だなんて信じられないよ。現実に世界各地で戦争は起きているし、国内でも犯罪は絶えないしね。何より人間は弱いし、欲望のかたまりみたいなもんだからね。悪いことをしたら、厳しい刑罰を科すべきだよ。

川崎さん：私は、そうは思わないわ。もし、皆が皆悪人だったら、学校の先生やお医者さんや看護婦さんに自分の子どもをあずけられないわ。現実の社会は人間が本来善だからこそ成り立っているって面があるでしょ。目の前で子どもが車にひかれそうになったら、誰だって助けようとするに決まっている。映画やTVドラマの世界でも愛や正義がなければ、見る人など誰もいないわよ。

大山さん：川崎さんは、人間の本性が善だと決めつけすぎているよ。人間って放っておいたら中村さんの言うように欲望のままにふるまって社会は混乱するし、人をねたんだり憎んだりする感情の動物だから、人を傷つけたりもする。だからこそ教育や法律の制度をしっかりしておく必要があると思うんだよ。

田中さん：君たち3人は、みんなあまりにも固定的な価値観や常識にとらわれすぎているね。歴史をはるかかなたまで遡ってみれば、善とか悪とか対立したものの見方など存在しなかった時代があった。ごごかしい人間の知を超えてもっと自然の法則に任せるべきなんだよ。そうすれば落ち着くべきところに落ち着くはずなんだから。

(2) 人間の本性について、仮に性善説と性悪説のいずれかの立場で考えるとしたら、あなたの考えはどちらに近いですか。性善説なら1の番号を、性悪説なら2の番号を書きなさい。また、その立場を選んだ理由を、具体的な例を挙げて書きなさい。

この問題の出題のねらいは、「自己の人間観に関心を持ち、人間の本性について、具体的な事例をもとに考えることができる」であり、「関心・意欲・態度」及び「思考・判断」を評価の観点としている。

解答類型と解答の反応率を次に示す。

正答は、「性善説か性悪説のどちらか一方の数字を書き、選んだ理由を解答しているもので、性善説としては、人間は元来よい心をもっており、それを拡充させることが明記されているもの。また、性悪説としては、人間の悪さとそれを矯正する他律的規範が明記されているもの。」とし、例として、性善説を選んだ場合は、「乱暴な子どもでももっている優しい気持ちを見つけて育てていけば、立ち直ることが多い」をあげてあり、性悪説を選んだ場合は、「乱暴な子どもでも学校のルールを守らせれば、それが次第に身に付き善い人間性がつくられることが多い」があげてある。この問題の、設定通過率は55%であったが、実際の解答の正答率は35%と、20%も下回り、非常に低調である。性善説か性悪説のいずれかを書いているが、選んだ理由の具体例が示されていなかったり、理由の趣旨は汲み取れるが、性善説、性悪説のいずれかを書いていないものが解答に多く見られ、無回答も約20%であった。

上記に示した問題が、解答できるような授業の指導計画が求められている。

(2) 調査結果を踏まえた指導上の改善点について

具体的な、「調査結果を踏まえた指導上の改善点」¹³⁾については、次の4点が示されている。1点目は、「自分の体験と関連付けて人間としての在り方生き方について考えさせる指導の改善」、2点目は、「先哲の思想を自己の生きる課題として考える手掛かりとさせる指導の工夫」、3点目は、「社会の一員としての生き方の探究を促す指導の工夫」、4点目は、「生徒の関心をとらえ、主体的な課題追究を促す指導の工夫」である。

1点目に関しては、次の3つの指導の工夫が示されている。1つ目は、「青年期の意義と課題について単に知識として習得させる指導に終わるのではなく、青年期にある自己の変化など自分自身の体験と重ね合わせて、具体的に自己理解を深め、自己形成を課題としてとらえさせていく」こと、2つ目は、「人間存在にかかわる基本的な課題に対する関心を高め、人間としての生き方を考える上で、人間の在り方についての深い洞察が重要であることに気付かせる」こと、3つ目は、「高校生として人間としての在り方や人間性への関心を高め、生涯を通じて

自分の生き方を探究していくための基礎を築く」ことである。

2点目に関しては、先哲の思想に関する学習について、「人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事項について理解を深め、自己の生きる課題と関連付け、具体的事例を通すなどして、人格の形成に生かす基礎的知識として確実に身に付けさせるとともに、先哲の考え方を手掛かりとして、生徒が自らの課題について思索を深め、倫理的な見方や考え方を身に付けさせる」ことが求められている。

3点目に関しては、次の3つの指導の工夫が示されている。1つ目は、倫理に関する学説や概念を取り扱う学習について、「その基本的な理解とともに、内容によっては他の科目等と関連付け、日本や世界の現実の動きや状況も考慮に入れながら、自らの生き方を考えさせる」こと、2つ目は、「自分が現実に生きている社会状況をとらえながら、自分はどうのように生き、どのような社会をつくっていくのかを、倫理的視点から、考えさせる」こと、3つ目は、「社会生活における人間関係や社会における自己の生き方という視点から、社会の一員としての自己の生き方の探究を促す」ことである。

4点目に関しては、「課題解決的な学習を取り入れた授業、発展的な課題を取り入れた授業、観察や調査・見学、体験を取り入れた授業、調べたことを発表させる活動を取り入れた授業など、生徒の実態を踏まえて、生徒自身の主体的な課題追究を促すような教材の開発や指導方法の改善」が求められている。

5. お わ り に

本稿では、高等学校学習指導要領における「倫理」の目標・内容構成の変遷について概観し、2009（平成21）年版高等学校学習指導要領「倫理」の内容構成の特徴を分析した。そして、今後、求められる「倫理」の学習指導の在り方について、「結果概要」の内容を見てきた。

これからの、「倫理」を指導する上で改善すべきことは、次の4点を参考にしつつ行われることが、望まれる。1点目は、自分の体験と関連付けて人間としての在り方生き方について考えさせる指導の改善である。2点目は、先哲の思想を自己の生きる課題として考える手掛かりとさせる指導の工夫である。3点目は、社会の一員としての生き方の探究を促す指導の工夫である。4点目は、生徒の関心をとらえ、主体的な課題追究を促す指導の工夫である。

【引用文献】

- 1) 文部省『高等学校学習指導要領解説 公民編』実教出版、1989年、p. 51

- 2) 文部省『高等学校学習指導要領解説 公民編』実教出版, 1999年, p. 42
- 3) 前掲書 2), p. 42
- 4) 前掲書 2), pp. 57-58
- 5) 中央教育審議会「幼稚園, 小学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」2008年, p. 82
- 6) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』日本文教出版, 2008年, p. 26
- 7) 国立教育政策研究所教育課程研究センター『平成17年度教育課程実施状況調査(高等学校)結果概要・集計表 公民 倫理 政治・経済』2007年, p. 5
- 8) 前掲書 7), p. 5
- 9) 前掲書 7), p. 33
- 10) 前掲書 7), p. 33
- 11) 前掲書 7), p. 33
- 12) 前掲書 7), pp. 52-53
- 13) 前掲書 7), pp. 41-42